第６０回津市総合教育会議議事録

日時：令和６年１２月１９日（木）
午後４時開会
場所：津市教育委員会庁舎４階　教育委員会室

出　席　者	津　市　長	前　葉　泰　幸
	津市教育委員会	教育長　森　昌　彦
		委　員　西　口　晶　子
		委　員　富　田　昌　平
		委　員　田　村　学
		委　員　山　口　友　美

教育総務部長　　定刻になりましたので、前葉市長から「第６０回津市総合教育会議」の開会の御挨拶をお願いいたします。

前葉市長　　只今より、第６０回津市総合教育会議を開催いたします。

教育総務部長　　ありがとうございました。それでは、本日の「１　協議・調整事項」であります「令和７年度に向けた教育施策の取組について」に入りたいと思います。
まずは、事務局から御説明させていただきます。

教育総務担当参事(兼)教育総務課長　　「令和７年度に向けた教育施策の取組について」、御説明させていただきます。お手元の資料を御覧ください。
　今回の資料は、前回、御協議いただきました項目を基本とし、各項目における取組状況や課題などをうけて、「令和７年度の方向性」を整理しております。それでは、「令和７年度の方向性」を主に説明させていただきます。
　１ページをお願いします。「１　子どもが主体となる教育環境」では、「子どもたち一人一人が主人公となる授業づくり」や、「特化研究プロジェクト事業による「授業改善」の促進」、学びを支える支援体制のより一層の充実のため「多様な学びを支えるための津市臨時講師等の人材確保」に努めます。
　２ページをお願いします。「２　子どもたちと向き合う時間の確保」では、左側、「教員支援員」につきましては、「教員支援員の人数を確保・充実するために、会計年度任用職員の任用を含めた任用形態の協議」を、また、右側、「スクール・サポート・スタッフ」では、県に対して引き続き配当時間の増を要望していきます。
　３ページをお願いします。「３　津市ＧＩＧＡスクール構想の実現」では、「ステップ３の授業『複線型の授業』において、クラウドを活用し、児童生徒が自らが学びに向かう環境の実現」、「特別な支援が必要な児童生徒や不登校児童生徒等の学びの保障」、「計画的なタブレット端末の更新」を取り組むためにも、「指導主事による学校訪問等のより一層の充実」、「教職員や学校への支援体制の強化」が必要と考えております。
　４ページをお願いします。「４　部活動の地域連携・地域移行」では、「部活動の在り方の検証」として合同部活動及び拠点校部活動等の取組について、学校や生徒等に調査を行い、成果と課題の検証を行うことや、「地域移行に向けたモデル事業の検証」では、安濃地域等でのモデル事例の成果と課題の検証を行い、地域移行を進めていきます。
　５ページをお願いします。「５　水泳授業の継続」では、「学校プールの使用が困難となった子どもたちへの水泳指導の機会を確保し、水泳授業を継続する」ために、今後の水泳授業のあり方や水泳施設の確保、送迎方法の検討をし、水泳授業が継続できるように取り組んでいきます。
　６ページをお願いします。「６　学校給食の安定的な供給」では、学校等給食物価高騰対策支援事業（給食物価高騰に対しての支援）について、「物価高騰収束の見込みが立たない現状を踏まえ、令和７年度においても支援継続の検討」をし、保護者に負担を求めないように取り組んでいきます。
　７ページをお願いします。「７　教育環境の整備」の左側、「長寿命化改修事業」では、「第２期津市学校施設長寿命化計画（後期計画）」に基づき、令和７年度においては、５

校の改修工事を計画することを掲げて、「今後の取組」としまして合併特例事業債の活用が令和７年度で終了することから、通常の学校教育施設等整備事業債の活用を図るとともに、国の補正予算など優位な財源を積極的に活用し、事業を実施します。

右側、「学校施設改修特別推進事業」では、「津市学校施設整備基金（３億円を積立）」を活用し、令和６年度において事業費約１億３千万円の改修工事を実施し、「今後の取組」としまして、「ボートレース事業で得られた収益金の一部を基金にさらに積み増すことで、複数年にわたり計画的な事業」を実施します。

下段の「教育環境の整備（暑さ対策）」では、令和６年度においては「教育環境への影響及び先進地事例の調査」を行い、令和７年度では経費比較、財源、整備手法など「整備内容の検討」を行います。

８ページをお願いします。「８　外国につながる子どもの教育環境」では、「初期日本語教室『きずな』、『移動きずな』の充実」、「高校進学ガイダンス及び大学見学ツアーの充実」などにより、外国につながる児童生徒の不就学状態の防止や、進学への興味関心を高めていきます。

９ページをお願いします。「９　放課後の児童の居場所の充実」では、放課後児童クラブの「計画的な施設整備に取り組む」ことや「運営補助金の一層の充実」などにより、放課後児童クラブの支援の充実に努めていきます。

１０ページをお願いします。「１０　地域とともにある学校づくり」では、学校運営協議会と地域学校協働本部の連携・協働によるめざす姿に向けて、「学校長によるめざす学校・子ども像の発信及び学校の課題についての積極的な協議」や「子どもたちの地域学校協働活動への参画等、子どもが主体となる教育活動の充実」に取り組んでいきます。

１１ページをお願いします。「１１　幼児教育から小学校教育への連続した学び」では、「津市架け橋プログラム」がめざす「幼児教育と小学校教育の接続・連携強化」や「幼児教育・小学校教育それぞれの教育の改善・充実」のため、「全小学校区架け橋期カリキュラムの実施・検証・改善」などを継続して行っていきます。

１２ページをお願いします。「１２　社会教育の推進」についてです。左側、「生涯学習の推進」では、「南郊公民館等整備事業」につきまして、高茶屋保育園跡地を活用した南郊公民館等複合施設の整備を進めていきます。その右側、「文化財事業の推進」では、「津城跡（お城公園）の整備」につきまして、「津城跡整備の方向性の提示」や「旧社会福祉センター除去後の跡地整備」に取り組んでいきます。その右側、「図書館事業の推進」では、「図書館機能の充実」につきまして、「図書館情報システムの更新」や「蔵書の充実」を図っていきます。

１３ページをお願いします。「１３　白山地域における小学校の在り方」では、白山地域小学校の在り方検討委員会等において今後の在り方を検討していただきくことに寄り添っていくことや、白山地域小学校の児童の交流を図るために白山地域の小学校５校での交流事業などを実施していく予定です。

説明は以上でございます。御協議のほどよろしくお願いいたします。

前葉市長　　資料にはその様々な取組と方向性、課題などが記載されています。本日は、それらの課題について御審議を行っていただきます。その後１か月半ぐらいかけ、教育委員会と財政との間で予算折衝が行われます。したがいまして、現段階で特に気になってい

ること、来年度しっかりと取り組むべきことなどを、具体的なアイデアも含めて御発言していただいて、それらを教育委員会の方でしっかりと受け止め、予算の獲得に挑むと、こういうことになりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、１ページから順番にいきます。各ページで御意見のある方は、恐れ入りますが申し出ていただいて、御発言をお願いいたします。１ページの子どもが主体となる教育環境でございますが、よろしいですか。

ないようですので、２ページにいきます。教員支援員とスクール・サポート・スタッフの配置についてですが、よろしいですか。西口委員。

西口委員　　１ページにも関係すると思います。子どもが、充実した学校教育の中で生活をしていくためには、教師がいかにゆとりを持って授業ができるかが大事だと思うのですけど、そのゆとりを持つためには、さらに教師を支える「人」と「もの」が不可欠だと思います。その人というのは、２ページにある教員支援員、スクール・サポート・スタッフになってくると思います。

特に、教員支援員は、退職年齢が上がってきたことによって採用が今までのようにスムーズにいかない場合もあるかも分かりませんが、教員支援員とスクール・サポート・スタッフを上手に整理しながらも、人員をきちんと確保をして教員も授業に向かっていけるためのサポートをしっかりと取ってほしいと常に思います。よろしくお願いいたします。

学校教育部長　　スクール・サポート・スタッフは、国が大分人数を増やす方向で昨年度も今年度考えており、県からもしっかりと増額ということは言っていくということは聞いております。そのあたりも含めて、津市の方へできる限り配当していただくようにこちらからも継続してしっかりと伝えていきたいと思っております。また、教員支援員をどのように配置していくかもしっかりと検討していきたいと思っております。

前葉市長　　スクール・サポート・スタッフは、割り算して４０５時間ということですけど、これは週１回という感じですか。

学校教育部長　　週３日などです。

前葉市長　　１日当たりの時間が短いということですね。

学校教育部長　　はい。３、４時間と短いです。

前葉市長　　一方で、教員支援員は２校へ大体週に２日ずつという感じですね。それも、１，４６０時間ですので、フルタイムで行っているわけですね。単純に４０５時間との比較においても約３．５倍と４倍に近いし、ここのアンバランスが少しある。

教育総務部長　　大変喜んではいただいてはおるのですけども。

前葉市長　　それはそうでしょう。

教育総務部長　　いかんせん確保していくことがなかなか難しい中では、いろいろなことを書かせていただきましたが、会計年度任用職員も含めた形でも、まずは実際の活用のされ方を現場の方でしっかりと確認させていただいて、実態的にもスクール・サポート・スタッフとあまり変わらない利用のされ方がされているようでしたら、そういったことも考慮しながら検討していかなければならないと思っております。

前葉市長　　再任用職員は、６０歳から６５歳までの５年間勤めていただく形でずっと頑張ってきてくださって、非常によくしてくださいまして、いい評判ですが、一方で、市役所ＯＢないし市教委ＯＢで考えますと、会計年度任用職員は６５歳を超えた方になってしまいますよね。それはどういうふうにしますか？

教育総務部長　　現実的に、再任用でもともと教員支援員を務めていただいて、５年後会計年度任用職員という形でさらに延長をお願いした方の中にも、「年齢的にフルタイムは難しく、スクール・サポート・スタッフのような業務時間形態であれば続けられる」とお断りになった方もお見えになりますので、どうしても再任用を獲得していくことになりますと、ある程度の年齢の方々を対象にということになると思います。実際、若い元気なかたももちろん多いですが、フルタイムですとなかなか難しい部分もございます。特に、その業務が集中するような時間帯など、そういったことでありましたら、スクール・サポート・スタッフのほうが逆に使い勝手が良いという実態もございますので、そのあたりも含めまして、教員支援員の在り方を考えていかなければならないと思っております。

前葉市長　　会計年度任用職員の教員支援員は、もともとの教員支援員とは違うことを考えていただきたいと思います。それで、６５歳を超えてということですと、やはりスクール・サポート・スタッフとのバランスの悪さもすごく気になってきますので、「再任用職員の数がだんだん減っているから会計年度任用職員に置き換えていけばいい」という考え方は、あまり取らない方がいいと思います。ですから、そこはきちんと教員支援員とスクール・サポート・スタッフとしてということですね。ところがスクール・サポート・スタッフは国庫・県経費ですので、足りるか足りないかという課題がありまして、もし足りない場合は、単独事業費でどのように補っていくかという議論になるかもしれません。少なくとも２，６８２万円という予算は、人件費としてはかなり大きい予算ですので、これだけあって再任用というスタイルの方がだんだん見えなくなるのであればどうするのかということは、ゼロベースで考えた方が多分いいのではないかと思います。もちろん再任用がいきなりゼロになるわけではありません。６２歳で再任用になる方、６３歳で再任用になる方などがいらっしゃいますので、そういう方々にここへぱっと教員支援員としてはまってもらう分には構わないと思いますが、一方で、それはいずれなくなるわけですので、どこかできちんと立て直さなければいけない話だというように思います。スクール・サポート・スタッフはもう少し増えそうですか。

西口委員　　スクール・サポート・スタッフには時間の制約はありましたか。

学校教育部長　　津市全体での上限がございまして、それを配当する形になりますので、学校での上限もございます。

前葉市長　　全校配置というのは、三重県教委がそうするように言っているのではなくて、津市が言っているのですか。

学校教育部長　　津市です。配当があったものを学校に再配当しています。

前葉市長　　学校によっては、たくさんサポートが欲しい仕事がある所と比較的少なくていい所とあります。

西口委員　　週３日ぐらいの所もたくさんあると思いますので。

前葉市長　　いろいろあるのですね。ほかにこの点について何かございますか。
　それでは、次に参りましょう。津市ＧＩＧＡスクール構想の実現です。「令和７年度約２万台購入」と、ものすごい大きなことがさらっと１行で書いてありますので、これは大きなお話ですね。どうぞ。

富田委員　　ちょっと「２万台」のお話と異なりますが、タブレット端末を活用した授業も、ここ数年でかなり活発に進められていると思います。毎回、学校や人によって、使用条件に大分差があると伺います。恐らく、年齢が１つの関数になって、年齢が上がるほど使用率が下がることはあるとは思いますが、それでも結構活用されているような人は、どういう環境の下にいらっしゃる先生なのか、あるいは教科の特徴によっても使いやすさと使う場合の方法や内容が違うと思いますので、そのあたりを整理して今後より一層推進していく必要があると思います。また、ある程度でこぼこをなくしていきながら行っていくためには、一旦整理しつつ状況を確認する必要があると思いますので、現状何か分かっていることがありましたら教えていただきたいと思います。

学校教育部長　　年齢層から言いますと、委員がおっしゃいましたように若い年齢層の方につきましては、比較的タブレット端末等のＩＣＴ教材を使った授業がされやすいと思っております。ただ単にＩＣＴ教材を使うことで良い授業になるかと言いますと、やはり違うところがございますので、そこはやはり今私たちが求めている授業を、経験を積んだ先生方、あるいは指導主事がしっかりとサポートをさせていただく中で、タブレット端末をどう効果的に使っていくかというあたりの研修会を今、回数を重ねながらさせていただいております。
　拠点となっていただく学校につきましては、特化研究プロジェクトの学校を中心に公開授業もしていただきながらどのようにタブレット端末を使っていくかというあたりにつきましては、先生方が有志で集まってタブレット端末を使った効果的な授業を自分たちで研修していくというような、そういった流れも出てきておりますので、そこに指導主事も入りながらさせていただいている状況です。

富田委員　　「教科、教員などによる違いを何かしらもう少し状況を把握できないかな。」というように思いますので、数値化してみるのも。

前葉市長　　固有名詞の話なんだけど、固有名詞を出さないとしても「Ａ校ではこう」、それに対して、「Ｂ校ではこう」ということがもう少しね。今、「こんなケースもある。こんなケースもある。」と言うんだけど、これだけ進んでくると、ある程度学校毎にうまくいっている所とそうでない所が明らかになっているイメージが私もあるので、今の委員の御意見は非常によく分かります。

富田委員　　全体の方向性と取組についてはよく分かるのですが、のちのちピンポイントに何かは分からないというときに、ケースケースでいいのだろうかと思います。

学校教育部長　　教科、単元によって、タブレット端末が効果的に使える授業も異なりますので、どの教科のどの単元で使いやすいかというようなところを、子どもたちが探求していくような授業では、タブレット端末が非常に効果的に使われるようなところも検証を行っていく中で分かってきておりますので、そのあたりは、今後、教育委員会の方でもこういった授業のこういった単元でタブレット端末を効果的に使っていけるというようなあたりにつきまして、まとめていくようなことをしていかなければいけないなと思っております。

前葉市長　　それでもまだずれていて、単元、教科というと、固有名詞の世界に行かないわけです。例えば、「ある単元はみんなが上手に使っています。ところが、ある単元はみんながうまく使っていません。」というような話になるんだけども、全体を子どもたちに広くＧＩＧＡスクールの効果を届けるためには、要するに、変な話、言葉がよくないですが、下手な教え方をしている先生をなるべく一掃しないといけない、なくさないといけないという、その方向で考えて欲しい。
　やじろべえのところは上手だけども、粘土細工はどうもという、そういう話ではなくて、上手に教えている、上手に使っている先生はうまくできていて、ここが何でうまくいかないんだろうという学校毎の差が出ているのではないかなということは、少し漏れ聞こえてくる保護者の意見などでも感じるところがありますね。

学校教育部長　　「授業改善の進み具合のところなのかな」と今聞かせていただいて思いますが、教育長とも一緒に学校訪問させていただきますと、市長が先ほどおっしゃいましたように、タブレットがうまく使えているかどうかも含めて授業改善が進んでいるかどうかというところがあると思いますが、そのあたりにつきましては、やはり学校毎におきまして、校長先生の意識、それからどういうふうに進めていくかというマネジメントなどに差があります。先進的に良い授業をされている所へ職員をどんどん見学に行かせるということも進んでおりますので、私たちとしましては、どこへ行っていただくかというあたりも発信し、「この学校の、この授業を見てきてください。」、「この先生の授業が参考になりますよ。」というあたりはどんどんと「津市 e-Learning ポータル」にもあげながら、発信をさせていただいておるところでございます。そのあたりも取り組んでいきたいと思

っております。

教育長　　学校を訪問させていただいていて、基本的には使っているかどうかというと、使っています。ただ、僕らが思っている「授業改善」というところでいうと、そういう使われ方ができている所とできてない所があると思うので、おっしゃったとおり、津市にある６８校の学校を、できている所とできていない所に対し、例えば「ここはできている。ここはできていない。」など、それはある程度今でも言えます。言えるし、その学校の中で、例えば「できてない」ということもありますけど、「この方は、全然授業はしっかりできています」というのはある程度、私たちもそうですけど、指導主事なんかはかなり把握ができていると思うので、そういう把握が恐らく今でもある程度はできていると思います。

それをさらに、単に端末を使ってということだけではなく、本当に今している「子どもたちが主体的な授業」という、そういうような今目指している授業をするために、どう使うかということが、この一番下の３ページに書かれている「情報活用能力」です。

これが１つのポイントです。今しようとしているのは、ここのところが、子どももそうですし、教員がしっかりと活用をできないと、「上達する」ということが、単に端末をうまく使うだけではなく、課題をどうやって設定するか、またどうやって情報収集して調べるかなど、いろいろなことを学ぶ機会なのです。そういったことを育成していくことがこれからの非常に大事なことです。

そのために今の情報担当の指導主事をもっと今まで以上にしっかりやってもらわないとといけないし、もっと今言っているヘルプデスクが必要であったり、そういったことにものすごくこれは関わってくるわけです。これが例えば、今から授業改善、また今富田委員が言われたようなことをしていくために、もう今の課題がはっきりと見えているわけですけど、そのために何ができるかということが、もうここなんです、情報活用能力。なので、そのあたりをしっかりとしていくために、今それぞれの学校がどのような状況か、それぞれ個人がどのような状況かということを、ある程度は把握できているのではないかと思っています。それを例えば表にするなど、何か、言ってそこまでのことはまだしていませんけど、でもある程度それぞれ担当が頭に入れながら指導をしているのかなというようには思います。

前葉市長　　どうぞ、山口委員。

山口委員　　若い人たちを見ているとネットに常時接続して検索をすれば、あらゆる情報が手に入ります。今の中学校の授業を見ていますと、「検索をして答えを貰う」ことは「常時接続する」ということではないと思うのです。この情報を活用するということは。まずは考えて考えて知りたいという意欲を引き出した上で「今日はどうやって調べる？」というお話で、そこが教育の質につながっていくところかなとは思います。そのあたり若い先生方がどのようなイメージをお持ちか分からないですけど、とにかく検索をすれば、どういう検索の仕方がいいかなど、そういうアイデアも含めてですけど、「そこじゃない」ということをおっしゃっているのですよね。そこは強制的にそこを学ぶような仕組みをつくるのか、自発的に先生方が授業見学に行くことを待つのか、ということも大事なのかなと

思います。多分行かれる先生はすごく行かれて、授業研究にますます上がっていくのですけど、そういった質の底上げということが新しい先生もいらっしゃるんじゃないかなと思い、そこを懸念しているところです。

教育長　　今のところ恐らく津市内のどの校長先生に聞いてもらっても「津市が今やっていることは何ですか」と言われたら、絶対間違いなく私は「授業改善です。」と言うと思います。それぐらいのことはずっとしてきたつもりですけど、それをどう捉えているかなのです。

自分たちが目指そうとしているところまで持って行こうとしているところもあれば、まだまだそうでないところもあり、そこにやはりまだ段差があって、端末の使い方にも差があったりします。単に使うだけじゃなくて、自分たちはとにかくその端末を使って子どもたちの様子であったり、子どもたちが今何に取り組んでいるか、そこまで見ながら指導するという、そこまで求めようとしているのですけど、求めているところまで到達しようとしているか、まだまだそこまでいかないか、その違いがありますけど、ただ、端末を使っているかどうかということだけで言えば、かなりそれは進んできているんじゃないかなとは思ってます。

自分たちもいつも言っているわけではないのでやはり言えないですけど、見た授業と普段の授業がどの程度違うかは見たと思いますので、それはまた保護者の方など、いろいろな方の御意見がある程度必要になると思います。

田村委員　　すみません。少し的外れかもしれないですけども、ここぐらいしか関連する項目がなくて。今山口委員も少し言われましたが、最近のＡＩの目覚ましい進化に対して学校現場もどのように対応していくかというようなところですが、来年度にもすぐ表へ出てくるような表現をするには至らないにしても、意識していかないといけないと思います。そこのところＧＩＧＡスクール構想の中で、いろいろな活用、それから良しにつけ悪しきにつけ、子どもたちがどのように巻き込まれていくか分からないため、何か「方向性」というか「意識」という言い方しかできないのですけども、この資料の中で、ＡＩが全く単語として出てこないということ自体がどうなのかなというように思います。ただ、表へ出して書かなければならないかというと、そこまでのことではないですけども、意識はしていないと世の中に取り残されるんじゃないかなという気がします。

教育研究支援課長　　タブレットは、今は子どもたちによって文房具のように使われているところがありまして、朝の時点から帰りまで常に使っている子どもたちもいますし、もちろん家へ持ち帰って使っている子どもたちもいます。

教育長　　ＡＩというものが学校の中でどのように活用されているのかです。感想文を書く際などいろいろと私たちの知らないところで子どもたちは使っているのか、何かのアイデアを参考にするために使っているのか、学校の中では、「どうなんやろな」と思い、ちょっとあんまり。

学校教育部長　　今、文書で、国からＡＩの読書感想文などにつきましては注意喚起が来

ております。学校の方でそのあたり子どもたちの様子をはっきりと見てほしいというようなことで来ております。一方で、子どもたちは、これだけ開かれておりますので、いろいろと検索したりということはあるか分からないですけども、ただ、授業の中でそういったことが出てきたときに、先生たちがそれを子どもたちの作品なり何なりを見たときに、そこだけで評価するということではなく、やはり子どもたち同士が話し合ったり、お互いに学んでいく中で、そこだけで評価をするわけではないので、そのあたりはしっかりと把握をしながら行っていくところなのかなというように思うのですけども、ＡＩに子どもたちが頼っていかないようにということにつきましては、国の方からも注意喚起は来ているところではございます。

田村委員　　変に話を広げてしまいかねないのですが、子どもたちに正しい使い方、危険性について伝えることは教育の一環として当然だと思います。これはＳＮＳの話ですけど。一方で、ＡＩのいいところを使えば、教員の支援になるかもしれません。単純作業で済むようなことはＡＩに任せてしまって、人間しかできないことが最後に残るという、そういうところに対する意識というか研究はあってもいいような気がします。インターネットにつながった端末を持っていたら知らないうちにＡＩを使ってしまっているのですよ。単語検索したらあれは答えを返しているのは大体ＡＩですから。なので、積極的に使えとは言いませんけども、うまく使えば、いろいろな面で授業のサポートにもなるかもしれないし、教員の支援にもつながる可能性はあるんじゃないかなというように思います。

西口委員　　いろいろ話が出てきているのですけども、タブレットが導入されてから授業が本当に変わったなということを思いました。もう文房具の１つのように机の中からすっと出して、すっと書いて、それがぱっと大型テレビに反映されて、この子らが何を考えているかがよく分かるという、これはもう本当に、タブレットが入ってきたということが大きな１つの変革だったなということを思います。

　それで、「授業改善」と今教育長がおっしゃいましたけども、私は地域を見ていると、やはり「授業改善」という言葉は本当に先生の中に浸透しつつあって、もう一歩かなということを思いながら見ています。そのようなこととともに先ほど「人」と「もの」と言いましたけども、「もの」で、タブレット端末がそろそろ導入して５年になってきたので、そろそろ５年もたつと古くなってきている所もあるので、一気にあの時購入したので今度これ７年度ということは来年ですよね。一気に購入ということで、ぜひ「新しいものへ」ということでよろしくお願いします。子どもの数もちょっと減っているなど思いながら、ぜひぜひよろしくお願いします。

前葉市長　　よろしいですか。それでは、次に部活動ですね。どうぞ。

西口委員　　神戸市が「令和７年８月に部活動を中止する」というニュースで出ていましたが、それとともにこの頃「部活動の地域移行」ということがテレビで放送されるようになってきました。いろいろ話を聞いていて、来年度の方向性が書いてありますが、やはり一番危惧することは、この体験の差が出てくるということが、子どもによって公教育を責任ある私たちとしたら、その差がないようにはしていきたいと思うので、地域移行につい

ては、本当に慎重に、上手に進めてほしいなと、安濃地区、白山地区など一緒に行いながらというようなことを進めていってほしいなということを思います。あくまでも本当にこの子どもたちができることの場になってほしいなと思います。神戸市のニュースを見ていて、一番入りたいクラブが帰宅部という子どもたちが多いと言っていてびっくりして、そんな子どもたちを津市として、慎重に見てほしいなということを思ったりもしています。よろしくお願いします。慎重にというか、どうしたらいいんですかね、これは。

教育長　　そうは言っても、ある程度方向性を出したいなと実は思っていて、よくこの辺で話をするんですけど、要は、子どもたちがどう思っているかですが、半分は、部活動をしたい、又はしたくないのどっちでもいいんですよ。３割はしたくて、２割はしたくないんです。先生方はというと、どっちにもなる人がいて。

学校教育部長　　部活動をしたい人は２０％です。

教育長　　２０％で、残りはしたくないんです。それを総合的に考えたときに、さあどうしようかと。一番思っていることはどちらにもなびくこともそうですけど、３割のやりたい子どもたち、まずこの子たちにはしっかりやらせてあげたいなということはすごく思います。それと、今の先生方の働きもやはり考えていくとなると、神戸市みたいに、例えば、来年から「全部の学校から部活を中止に」というような判断はさすがに私はできませんが、少なくとも、「土日は学校からは外す」ということはどこかでも行ってみてもいいのかなという気は自分はしています。学校でしない代わりに、例えば、特定の部活動は、「ここでやりましょう」、「この学校を中心にやりましょう」というようなしっかりとした受け皿を当然つくっておく必要があります。それを部活動をやりたい先生方にやってもらうか、学校教育とは別に社会教育でやってもらうか、地域の人にやってもらうかなどいろいろ選択があると思いますが、その今言った土日の地域へというあたりを地域だけではなくて「学校の先生」も含めてやり方を変えていくことをやっていかないといけない、それが年度は言わなくても、近い来年、再来年ぐらいまでには方向性は出していかないと、いつまでも部活動指導員どうのこうのというようなお話だけでは少しも進んでいかないというように自分は思っています。その際に、忘れてはならないことは、「子どもたちがどう考えているか」、「先生方の意思疎通」で、そのうちやはり特に大事なことは「子どもたちがどう考えているか」というように思っていますので、「慎重に」というよりも「少し前へ」というか、今までは本当に慎重にしてたんですけど、いつまでもそうはいかないと思っています。

田村委員　　幾つかお話を伺っていて、３割の部活動をやりたい子どもたちを下手すると見捨ててしまうお話になりかねないので、やはり教育長が言われたように本当に慎重にと言いますか。

　前回の総合教育会議でもお話ししましたが、できることでしたら、子どもたちにそういう選択肢を１つでも多く用意したいですね。それと、ぱっと思いましたが、スポーツクラブの門を叩くことはそこそこハードルが高いと思います。学校のクラブですと、少し興味があるスポーツに触れてみて「楽しいな」と思えたら、続いていくように思います。その

ような子どもの将来を左右するようなきっかけを奪ってしまうお話になりかねないと思いますので、言うことは簡単で難しいと思いますが、学校の部活にはそれなりの良さがあると思いますので、残していっていただく方がいいのかな。

前葉市長　　いや、教育長が考えておられるのはあれですね、１学年３人とかでは３学年９人で野球を何とかできるかどうかというところを、３校集まれば１学年で９人になるのでという、学校のクラブみたいなものが合同で何か行うという。それはでもどこかの学校のクラブというわけにいかないので地域クラブというイメージから入ってくださっているという。

田村委員　　拠点化の１つの手法みたいなものですか。

前葉市長　　決して「強いチームをつくろう」など、そういう感じではないと思います。

田村委員　　あっ、そうですか。

前葉市長　　好きな競技、自分がやりたい競技をする。

教育長　　極端な話、学校の普段の日は例えばバレー部に入っていても、土日は違うことを行うということも１つの選択肢としてあります。やりたいことができるようにする一方で、今のまま地域に限定してしまうと、いつまでたっても前に進まないと思います。どこかで何かをしていきたい。

前葉市長　　次は水泳ですね。これは大きな今後の、増えてきたときの悩ましいところですね。
　それでは、次に行きます。６ページ給食ですね。１億を超えるお金ですね。実際に公費を入れるようになってから、もし入れていなければ給食が悲惨なことになっていたと思います。そのあたりの感じを少し聞かせてもらえますか。

給食担当副参事　　現在の給食費は、平成２８年に設定されました。それで、現在の物価のことを考えますと、保護者様から頂く給食費だけで回していくことは非常に苦しいです。「この支援があるからこそ、給食が回っている」と言えると思います。

西口委員　　「言える」のではなくて、本当にこれだけ補助しているということは給食が変わる、本当に悲惨なんです。給食費がなくなってきたときの給食のメニューというものは。これだけは絶対に確保して欲しいなということは強く思います。

教育長　　必要なカロリーなど、そういうことにも関わってくると思いますね。

西口委員　　本当に給食費がなくなってくると、「えっ、今日の給食はこんなの」というような経験をしてきたので、自分が、すみません。

前葉市長　　「平成２８年からの」というお話で、これは短期の話で、例えば、当初予算で１０％乗せた結果、まだ足らなかったということで、１２月以降にさらに６％乗せていますが、もう少し、平成２８年と令和７年度で、明らかにこれだけ、今一時的に上がっているというお話ではなくて上がっているということなんだろうと思います。「これだけ違いがありますよ」ということで、「その差額を埋めにいってますよ」というようなお話にしたほうがいいと思います。

今の市長である限りこれをやめる気はないので、そうすると、毎年毎年この１０％がいいのか、さらに６％が要るのかどうかという議論をするのは何かつらいなという、要求側も査定側もつらいなという感じはします。

１０３万円か１７８万円というような、あれぐらいの粗っぽい議論でいいのではないかという。

どうぞ、山口委員。

山口委員　　１日に必要なカロリーの７０％というお話は、今も担保されているのですか。

給食担当副参事　　そこの部分は、国の基準がございますので、担保できるような形で、きちんと栄養士が計算をさせていただいております。

山口委員　　カロリーだけでいうと、お米をたくさん出せばいいという問題ではないというところで、栄養のバランスを考えていくということですね。

給食担当副参事　　はい。各栄養素の部分もきちんと国の方で学校給食実施基準で定められていますので、そこのところを計算してメニューの方を立てさせていただいております。

山口委員　　それをしっかりと保とうと思うと、自然に予算はスライドして上がっていくことにもなると思います。人数が減っているのもありますけど。御家庭の保護者の方たちがその基準に頼っているところもすごくあって、こども食堂がこれだけ増えていることもそういう意味ですよね。

国の基準を使っていらっしゃらない保護者の方の中で、「あれがあるからこそ」という声をたくさん頂くので、大事にしていきたいなと思っています。

前葉市長　　それでは７番、校舎環境について、何かあれば、どうぞ。

よろしいですね。

それでは、８番、外国につながる子どもの教育環境です。

よろしいですね。

それでは、９番、放課後の児童の居場所の充実です。

これはすごいことが書いてありますね。

田村委員　これは１０億超えてから一気にいったんやなということを今日のこの表を見て思いました。

西口委員　　令和６年で１２億円ですね。

前葉市長　　これには２つ理由があって、人数が増えていることと、単価が上がってきていることですね。財源は国が３分の１、県が３分の１、市が３分の１でしたか。

生涯学習課長（兼）青少年センター所長　　はい。

前葉市長　　国が設定する単価、それからいわゆる加配などが増えてきています。

生涯学習課長（兼）青少年センター所長　　すみません、細かい部分ですが、令和６年度だけはまだ予算ベースの数字でございまして、そういうカラクリもございます。

前葉市長　　よろしいですか。
　それでは次に、コミュニティづくりなど、地域とともにある学校づくりです。これも何度かここの場でも議論していますから、こういうことでよろしいですか。
　それでは次に１１番。津市架け橋プログラムの推進についてですね。どんどんよくなってきているんじゃないかなと思います。富田先生どうぞ。

富田委員　　毎回毎回言わせていただいていますけども、架け橋については順調に進んで効果も上がっていますので、このまま進めていただければと思います。

前葉市長　　それでは次に、１２番、社会教育の推進についてですね。これはまだ議論していないので、どうぞ。言うことがありましたら、お願いします。どうぞ、山口委員。

山口委員　　図書館事業の推進で「居場所機能の充実」と書かれているのですけど、これは何か具体的にどの対象の居場所ということなのかも含めて、子ども支援の中でも今とても力を入れているところなので、具体的なことを教えていただきたいなと思います。

前葉市長　　どうぞ、図書館長。

津図書館長（兼）津図書館図書事務長　　居場所につきましては、令和６年の３月頃に「よみものコーナー」というものを設置させていただきました。その後６月以降は、よみものコーナーが１か所だけではなく一部を除いたほぼ全館に、本を持ち込んでゆったりと読書を楽しめるような環境を少しつくらせていただきました。
　また、夏休みには「話せる図書館」ということで、その１日の企画ですが、「自由にしゃべってもいいよ」ということで、じゃんけん大会など、そういったことを行わせていただいております。
　そういう中で、皆さんが集まって、より楽しく過ごせる、そういう図書館づくりを今目指しています。

山口委員　　対象は、どういった方が利用されていますか。

津図書館長（兼）津図書館図書事務長　　よみものコーナーにつきましては、基本的に全世帯を対象としておりますが、特に、学生さんなどが読み物を持ち込んで、たくさん積み上げて読んでいたりというような光景も結構ちらほら見ることができる状況です。

教育長　　「図書館に居場所を」ということに僕がずっと力を入れるようにした一番最初のきっかけは、図書館推進協議会の中での意見です。
　「小さなお子さんをお持ちの親子さんが、お子さんのことを気にするあまり気を使ってしまう」というようなことに対し、「全国的に見たときはそうではなくて、お子さんたちが騒いでも大丈夫な空間をつくっている所もある」というようなことで、すごくいいなというようなところからスタートをしました。そこから、例えば、ヤングアダルトと呼ばれる人たちの中で､本をあまり読まない人たちがどうしたら図書館に来てくれるんだろうか」など、利用側にはどんなニーズがあって、それぞれのニーズにどうやって合わせていくかというように発展してきました。
　ですから､「子ども連れのそういう方々が気兼ねなく利用できる図書館っていいよね。」というところがこの取組をいろいろな形で広げていくためのスタートかなと感じます。

山口委員　　たくさんの子どもたちがにぎやかに遊んでいる声などがある図書館っていいじゃないですか。しーんとしているところももちろん必要ですし、結局、市としてどういうメッセージを発していくかだと思うんですね。
　今図書館を利用して高校生、中学生の居場所として校内カフェなどもあって、どこまで踏み込むか、どこまで規制をなくしていくかですね。若い世代に利用していただくことはとてもありがたいことだと思っています。ただ、今来ていらっしゃる方の理解もありますしね。しーんとしていますものね。
　あと、少し暗いといいますか。電気をＬＥＤに替えるなど、そういうお話は全くありませんか。

津図書館長（兼）津図書館図書事務長　　順次ＬＥＤの交換をしてまいります。

山口委員　　そうですか｡集まれるような場所にしていただけたらというように思います。

前葉市長　　久居アルスプラザがあれだけ日常的ににぎやかになっていて、多少騒がしくても全然問題ないようですしね。

山口委員　　使い勝手がいいですね。

前葉市長　　よろしいですか？

田村委員　　すみません。

前葉市長　　どうぞ、田村委員。

田村委員　　南郊公民館について、前年令和６年度に実施設計を行っているということで、来年から実際に建設整備にかかっていくということですが、いわゆる「こんな完成イメージですよ」という説明等は既に地域の方々へされているのですよね。

生涯学習担当参事（兼）中央公民館長　　この事業はそもそも高茶屋地区の公共施設の再編の中で進めさせていただいておりまして、まずはこども園からスタートして、その後公民館の整備という、消防団施設も一緒にということですが、その上で、既に地域に入らせていただき、「こういうふうな施設のイメージで進める」ということを御了承いただいております。このスケジュールにつきましても、回覧により周知をさせていただいておるような状況でございます。

田村委員　　つまり、どのような部屋・機能が入るかについては、ある程度の御理解をいただいた上で進めているということですね。

生涯学習担当参事（兼）中央公民館長　　はい。コンセプトを地域に説明させていただきました。そもそもこちらには高茶屋市民センターという大きな施設がございまして、そちらはすごく大きなホールとあと小さな部屋という構成になっていますので、高茶屋地域の活動でしっかりと埋めることができるような、その中間ぐらいの大きさの施設になるようにしていただき、一体的に活用していけるようにと考えております。

前葉市長　　最後１３番の白山における小学校の在り方について。教育委員会の中でも様々な報告があると思いますが、一番直近の情報を、来年の１月で第３回になりますか。どんな方向、どんな感じになりそうですか。

学校教育部長　　前回の代表者会議のときに、５校の状況、それから地域の状況についての資料をこちらから提供させていただきましたところ、安全性と利便性ということで絞っていただきまして、代表者会議のほうで絞っていただきました。来年、政策会議にもかけさせていただきますが、来年の１月中旬に代表者会議をしまして、そのときには選定していただきました学校において、増改築をしたときにはどのような状況になるのかというあたりの詳しい情報と、仮に新築にした場合はどうかというあたりも含めまして、少し資料を提供させていただいて、また御意見を頂くというような方向で現在考えております。
　それを受けまして、また今度検討委員会を１月の下旬に行うというようなところです。その際に、他にもいろいろと御意見が出るか分かりませんけども、現段階では代表者会議の中では、「絞り込んでの資料を提供していただきたい」というようなお声を地域からもいただいております。

前葉市長　　よろしいですか。それでは、ちょうど１３項目全て見ていただきましたので、今日の議論を踏まえて予算措置をしっかりと取って、大体の方向性が見える段階で、次回は「どういう形で令和７年度教育施策をアピールしていくか」という、そういう外から見

た「見かけの問題」も含めてもう一度予算発表前に総合教育会議を開催させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

教育総務部長　　ありがとうございました。それでは事項書２「その他」に入りたいと思いますが、特に事務局のほうでは用意してございませんが、よろしいでしょうか。
　それでは、長時間にわたりまして、ありがとうございました。これをもちまして、第６０回総合教育会議を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。